



冬眠明けのクマに注意！

&

試験研究情報

福島県農林水産部農業振興課



平成30年の秋は、ツキノワグマの餌となるブナの実が全県的に豊作でした。その結果、ツキノワグマは今冬の出生率が高まり、平成31年の春季にクマの出没が多くなることが予想されます。

また、今冬は、積雪が少なく融雪が早まっていることから、例年より早く冬眠から明けて行動を始めると考えられます。

冬眠明けのクマは、餌を求めて融雪の早い里地に下るほか、子連れグマが多いため人身被害の危険性が高まるので十分注意してください。

1 平成30年堅果類の豊凶調査

福島県自然保護課が取りまとめた結果では、ブナは県内全域で「豊作」、ミズナラとコナラは県全域で「並作」となっています。

このため、クマの出生率が高まると想定されます。

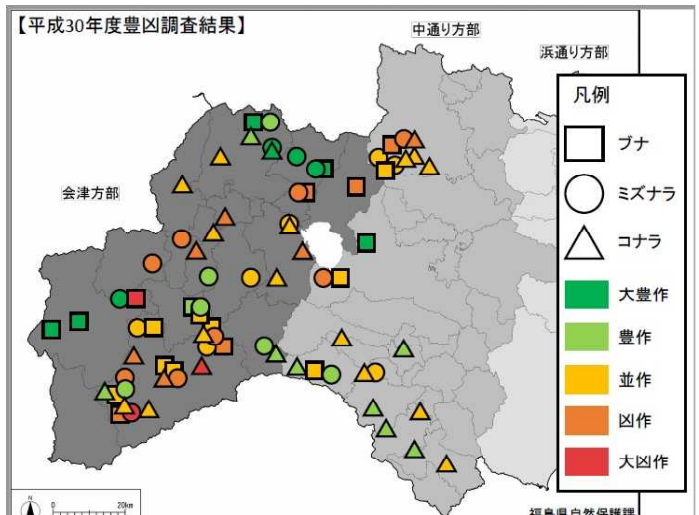


図1 平成30年度豊凶調査結果

※福島県自然保護課のHPより引用

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kennkaruityousakekka.html>

2 当面の対策

農作業などでの人身被害を未然に防ぐために、次のことに注意してください。

(1) クマの出没情報や痕跡に気をつける

出没情報のあったところには近づかないようにしましょう。里地でも、早朝や夕暮れ時のほか、日中でも降雨や霧が発生しているなど薄暗い時は活動が活発になるため注意が必要です。

足跡(写真1)、糞(写真2)、爪痕(写真3)など痕跡を見つけた時は、すぐに引き返しましょう。

足跡は、畑のような柔らかい土では、楕円形の跡だけが残ります。幅と長さが10cm以上あればクマのものだと考えてください。

糞は、新しいと食べたもの色を呈していますが、時間が経過すると写真2のように黒ずんできます。



写真1 ツキノワグマの足跡



写真2 ツキノワグマの糞
【撮影：NPO法人おーでらす】



写真3 ツキノワグマの爪痕
【撮影：小野（浜地域農業再生研究センター）】

(2) クマに自分の存在を知らせる

林縁部、やぶや川（沢）沿いで作業する際は、クマ鈴やラジオなど音の出るもので、クマに存在を知らせましょう。

(3) 子グマには絶対近づかない

子グマの近くには母グマが必ずいます。母グマは子グマを守るため、襲ってくる場合があります。子グマには絶対近づかないようにしましょう。

(4) 餌を野外に放置しない

クマを農地周辺に引き寄せないために、収穫残渣や生ゴミは放置せず、埋設するなど適切に処分しましょう。

(5) 隠れ場所を減らす

集落周辺の見通しの悪いやぶなどは、クマが安心して身を潜めることができる場所です。農地周辺に隠れ場所があると農作物に執着し、被害も大きくなりますので、計画的に解消しましょう。

(6) 正しく囲う

被害軽減効果の高い電気柵などを活用し、農地を物理的に囲い侵入を防ぎましょう。

(7) 目撃した場合、痕跡を見つけた場合

市役所や町村役場、警察署に連絡してください。

(8) 追い上げを行う

農地は「人間の活動域」であることをクマに認識させるため、動物駆逐用煙火（花火）で『追い上げ』をし、森林に押し返すことが大切です。クマの痕跡を確認したら継続的に実施すると有効です。

<試験研究情報>

※下記URLにて、農業総合センターの試験研究成果をご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/kenkyu-seika.html>

■集落アンケートを活用した集落ぐるみ鳥獣害対策

福島県農業総合センター企画経営部企画技術科（平成29年度）

- 鳥獣被害対策について、定期的な研修会開催や情報提供、アンケートを実施し集落・地域の意識変化を捉えながら進める必要があります。
- 過去、研修会に参加した人は、組織活動に肯定的な回答が多くなります。
- 適宜、アンケートを実施することで、住民の意識変化を把握することができます。
- 集落ぐるみの鳥獣害対策を進める際には、関係機関等はアンケートを実施しながら集落・地域の状況（農家・非農家割合、営農状況など）を併せて把握し、結果に基づき働きかける対象や内容について考える必要があります。

表 対策研修参加が対策組織への活動参加意欲へ与える影響（2016年、第2回調査）

	研修参加の有無		p値
	ある	ない	
参加する	24.6% (15)	16.0% (37)	0.1196
都合がつく時に参加	45.9% (28)	28.6% (66)	0.0100 **
参加可否	24.6% (15)	43.3% (100)	0.0078 **
参加しない	4.9% (3)	12.1% (28)	0.1043

注1 研修参加の有無()の数値は回答数

注2 **, *は母比率の差の検定によりそれぞれ1%、5%水準で有意差あり

■多種類の防護柵における対応獣種とコストの比較

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター（平成29年度）

- 鳥獣被害防止のため加害獣に対応した防護柵の設置は重要です。そこで、主な防護柵について対応獣種や費用、管理労力などについて比較し導入の目安を作成しました。
- 防護柵については、資材費用、対応獣種、使用方法、設置場所、管理労力等を総合的に判断して設置する必要があります。

表 各防護柵の資材費用と対応可能な獣種、管理の目安

防護柵名	試験時における 資材費用(円) 400m当たり	対応獣種			草刈り 頻度	設置・撤去 のしやすさ	下部 修繕	耐久 性	補修の しやすさ	広域 設置
		イノシシ	ニホンザル	ハクビシン アライグマ						
電気柵(イノシシ用)(図1)*	120,700	○	△	△	×	○	○	△	○	△
樹脂ネット複合柵(図2)*	132,200	○	○	○	×	○	○	×	△	×
トリカルネット複合柵(図3)*	174,400	△	×	○	×	○	△	△	△	△
ワイヤーメッシュ柵	353,700	○	×	×	△	×	×	○	△	○
電気柵(通電性防草シート使用)*	455,700	○	×	×	△	△	○	△	○	×
トタン柵	517,400	△	△	○	△	×	×	○	×	△
ワイヤーメッシュ複合柵(図4)*	532,600	○	○	×	△	×	×	○	△	○

*印:最大周囲500mのソーラー電源を使用

評価: (優)○>△>×(劣)の序列

(参考文献・資料)

「イノシシや中型鳥獣対策のための簡易電気柵」（長野県農業試験場、平成26年）

「サルに有効な電気柵の紹介」（兵庫県森林動物研究センター、平成28年）

「楽らくん設置マニュアル」（埼玉県農業技術研究センター、平成28年）

「獣害防止対策の手引き－防護柵の設置と管理－」（山梨県農政部、平成19年）

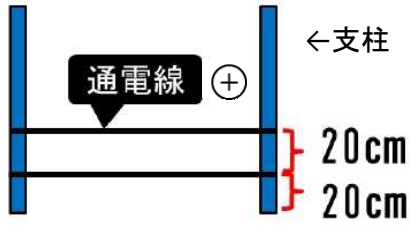


図1 電気柵（イノシシ用）の模式図

※その他の獣種の例

ハクビシン、アライグマ：5cm間隔で2段
ニホンザル：15cm間隔で6段

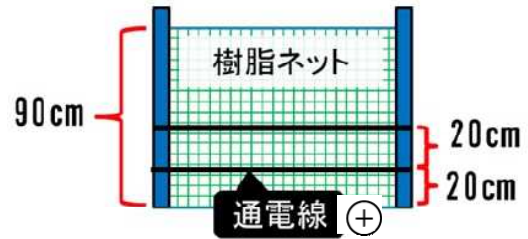


図2 樹脂ネット複合柵の模式図

※樹脂ネット：ポリエチレン等で柔軟性のあるネット（ホームセンター等で獣害対策ネットとして販売）

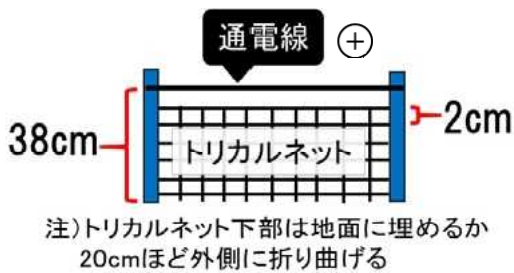


図3 トリカルネット複合柵の模式図

※トリカルネット：編んでいない角目タイプのプラスチックネット

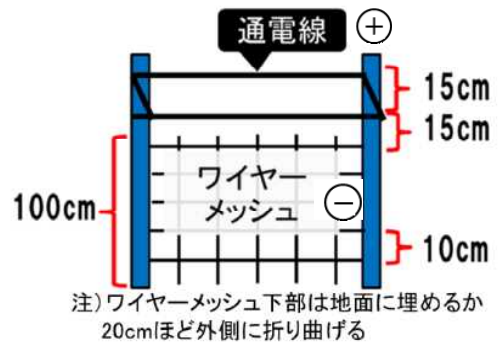


図4 ワイヤーメッシュ複合柵の模式図

（おじろ用心棒：ワイヤーメッシュにマイナス通電）

■ニホンザル被害に対する複合柵の効果

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター（平成29年度）

- ・ニホンザル対策として県外で実績のある「おじろ用心棒（複合柵）」を用いてサヤインゲンへの被害防止効果を実証しました。
- ・設置後にも柵周辺へニホンザルが出没しましたが、柵内への侵入やサヤインゲンの食痕は確認されませんでした。



写真 複合柵に接近するニホンザル

表 複合柵設置ほ場内の被害と痕跡の調査結果

調査日	サヤインゲン被害	鳥獣の足跡
7月10日	なし	なし
7月27日	なし	なし
8月30日	なし	なし
9月14日	なし	なし
9月26日	なし	なし
10月15日	なし	なし

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7344
○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。
URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>